

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和2年度農作物病害虫発生予察情報について

令和2年度農作物病害虫発生予報第5号を発表したので送付します。

令和2年度農作物病害虫発生予報第5号

令和2年7月20日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では, 葉いもちの発生圃場率が55.6%, 発病度が8.3と, 平年(32.8%, 2.2)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生が多い圃場では, 液剤による薬剤防除を, 出穂直前までに行う。
- (2) 窒素質肥料を過用しないこと。特に, 出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので, 穂肥, 実肥の施用時期・量に注意する。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では, 発生圃場率が5.6%, 発病度が0.1と, 平年(28.0%, 7.5)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し, 上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、株当たり虫数が0.05頭と、平年(48.6%, 0.19頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯の飛来調査では、飛来を確認していない。
- (2) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が5.6%、株当たり虫数が0.00頭と、平年(発生なし)に比べて高い。
- (3) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が27.8%と、平年(13.0%)に比べて高く、被害株率は2.9%と、平年(1.6%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除が遅れると幼虫による葉の食害が進むので、今後の発生に十分注意し、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。
- (2) 出穂期頃に被害が目立ち、被害葉が白くなった頃には幼虫が老熟しており、薬剤の効果が劣る。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ, ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の水田周辺の雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、18地点のうち10地点で生息を確認した。捕獲地点率が55.6%と、平年(60.6%)並の発生であるが、1地点当たりの捕獲虫数は1.6頭と、平年(6.7頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(出穂

直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。

- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

普通期水稲

いもち病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が36.0%、発病度が3.8と、平年(27.3%、2.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 苗箱処理剤にいもち病対象薬剤を用いていない圃場において、いもち病の発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行う。また、その後も病勢の進展が見られるようであれば追加防除を行う。
- (2) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤は出穂10日前までに、液剤は出穂直前までに防除を行う。また、出穂後曇雨天が続いた場合には穂揃期にも防除を行うとともに、穂肥の施用量は控えめとする。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が8.0%と、平年(10.7%)並の発生であるが、発病株率は0.5%と、平年(1.9%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、株当たり虫数が0.11頭と、平年(54.0%、0.18頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯の飛来調査では、飛来を確認していない。
- (2) 7月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も発生はない)。
- (3) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

斑点米カメムシ類(アスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の水田周辺の雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、24地点のうち9地点で生息を確認した。捕獲地点率が37.5%、1地点当たりの捕獲虫数は1.8頭と、平年(75.2%、8.1頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する(出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)(うち、ハスモンヨトウは7月17日付で注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2半旬の巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が93.8%と、平年(95.6%)並の発生であるが、被害度は13.1%と、平年(12.5%)に比べてやや高い。
- (2) 6~7月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査4圃場の平均)
 - ・ハスモンヨトウでは、6月第3半旬から7月第3半旬にかけて平年に比べてやや多く推移し、特に7月1半旬に急激に増加した(図1)。
 - ・シロイチモジヨトウでは、6月第2半旬から第4半旬にかけて増加し、その後は平年並に推移したが、7月第2半旬から増加傾向にある(図2)。

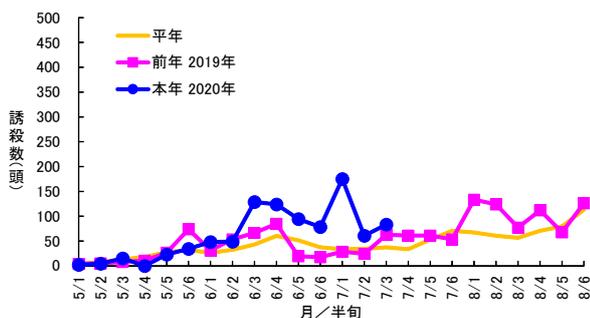


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)
* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

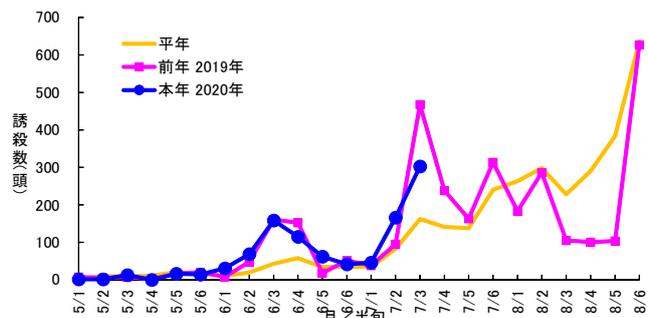


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(サツマイモ圃場)
* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

(3)高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)7月第2半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が44.7%、寄生葉率が5.3%)。

(2)高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

II. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1)予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

(1)7月第2及び第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が75.0%と、平年(58.4%)に比べてやや高いが、寄生葉率は6.1%と、平年(6.9%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ナシ

黒星病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)7月第2半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が5.0%、発病葉率が0.1%、発病果率が0.0%)。

(2)高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、発病葉率が7.9%と、平年(17.8%、1.5%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 窒素質肥料の過用を避ける。

(2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。

(3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣るので、展着剤を加用し散布する。

(4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では、産下卵確認圃場率が22.2%、100葉当たり平均卵数が0.2卵と、平年(24.4%、0.4卵)並の発生である。なお、果実の被害は認めていない。

(2) フェロモントラップへの誘殺頭数(6地点平均)は、6月第4半旬までは平年並に推移し、その後は平年に比べて低く推移した(図3)。

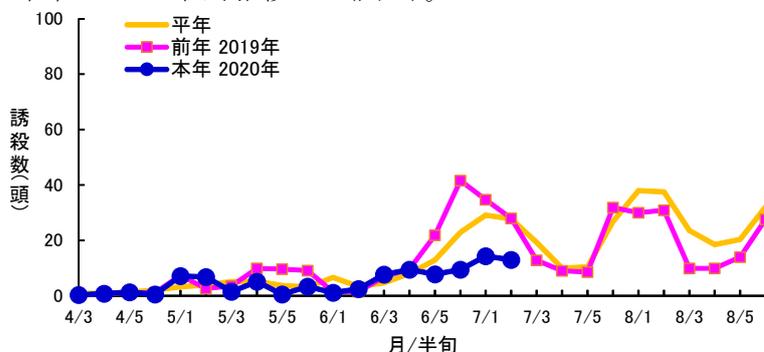


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移

*阿波市,三好市,東みよし町,石井町の6地点平均

(2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 被害部位(果実、花蕾)や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。

(2) 果実や茎、花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので、若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。

(3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵するので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第2及び第3半旬の巡回調査では, 発生圃場率が11.1%, 寄生葉率が0.2%と, 平年(27.9%, 2.3%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月16日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 期間のはじめは平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は多くが葉裏に寄生するので, 防除の際には, 葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは, 7日間以上止水する。

予報内容の表示

発生程度 : 甚 > 多 > 中 > 少 > 無

発生量 : 多い > やや多い > 並 > やや少ない > 少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosh/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。